

# 神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

## Gorokukaigi and Eorokhae : comparative study in one letter words

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-11-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 竹越, 孝 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/422">https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/422</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 『語録解義』と『語録解』（一字語の部）

竹 越 孝

## 1. はじめに

中国語は本質的に文語（文言）と口語（白話）との差が大きい言語であると言えるが、文語で使用される語彙と口語で使用される語彙を分け、口語語彙を文語で解説するという発想は、やはり中国語を母語とする文化圏からは生まれ得ないものであったと思われる。最初に中国語の口語辞書が登場したのは、漢字を使用するものの中国語を母語としない文化圏に属する朝鮮半島においてであった。その辞書を『語録解』<sup>1</sup>という。

本稿では、朝鮮半島で生まれた『語録解』が、我が国の唐話学（中国語口語研究）にどのような影響を与えたかという問題を考察するために、『語録解』と最早期の唐話辞書である『語録解義』の語釈を対照し、その類似性を明らかにしたい。

## 2. 『語録解』について

『語録解』は、『朱子語類』や『二程語録』など宋代の儒家語録に見られる語彙を集め、漢文とハングルで注釈を施したもので、初刊本である鄭澐本の系統と、改訂本である南二星本の系統に分かれる。本書に関しては大谷（1981）及び安秉禧（1983a）が優れた概説をなしており、以下それに拠り

---

1 古来、朝鮮半島において『語録解』の名で呼ばれた書物には、①「朱子語録解」の系統に属するもの、②「小説語録解」の系統に属するもの、③白斗鏞編纂・尹昌鉉増訂『註解語録総覧』（1919）、④満洲語辞書『同文類解』（1748）やモンゴル語辞書『蒙語類解』（1790）に付載された文法解説、という4種があり、本稿で問題にするのは①である。

つつ述べる。

鄭澆本は、鄭澆（1600-1688）が宋儒の語録類に対する朝鮮儒者の注、即ち李滉（1501-1570、号は退溪）の注（溪訓）、柳希春（1513-1577、号は眉巖）の注（眉訓）、及び退溪の門人たちの注の中から重要な語釈を選び取って語彙の字数別に配列し、これに一般的な口語語彙の注釈である「漢語集覧字解」と諸家の伝記から収集した語彙である「附録」を合わせたものである。鄭澆が慶尚道庇安の県監として在職していた際に、道内の各郡県で『朱子語類』を分担刊行したのち、余った版材を用いて孝宗8年（1657）に刊行させたものという。

現存の木版本によれば、総語数は1,182語、その内訳は一字類が183語、二字類が618語、三字類が76語、四字類が54語、五字類が13語、六字類が2語、漢語集覧字解が64語、附録が172語となる。

南二星本は、顯宗10年（1669）に王の命令により南二星（生卒年不詳）が主となって鄭澆本を改訂したものである。その際に、鄭澆本の不備や難解な箇所については新しく注を付け、さらに鄭澆本では巻末にあった「漢語集覧字解」と「附録」をも字数別の本文中に組み入れている。改訂の段階で新たに付された部分は「○」の記号で前文と区別される。

南二星本には木版本のほか、木活字本、写本など多くの種類のテキストが伝存しているが<sup>2</sup>、そのうち最も古形を存すると思われる木版本によれば、総語数は1,050語で、その内訳は一字類が157語、二字類が737語、三字類が83語、四字類が58語、五字類が13語、六字類が2語となる。全体として鄭澆本から133語を削除し、1語を増補したものであることが知られている<sup>3</sup>。

『語録解』の鄭澆本と南二星本の木版本は、安秉禧（1983b）、弘文閣

2 『語録解』の現存テキストとその所蔵に関しては、遠藤他（2009）を参照。

3 大谷（1981）によると、その内訳は以下の通りである：一字類183語→157語（-27語、+1語）；二字類831語（二字類618語、漢語集覧字解64語、附録149語）→737語（二字類-45語、漢語集覧字解-6語、附録-43語）；三字類88語（三字類76語、附録12語）→83語（三字類-3語、附録-2語）；四字類65語（四字類54語、附録11語）→58語（四字類-6語、附録-1語）；五字類13語→13語；六字類2語→2語。

(2005) に影印が取められている。

### 3. 『語録解義』とそのテキスト

いわゆる唐話辞書というものを「江戸時代に日本で作られた中国語口語辞書」と広く捉えるならば、『語録解義』は我が国で最も早い時期に成立した唐話辞書とすることができるだろう。その内容は、『語録解』と同様儒家の語録に見られる語彙を集め漢文で注釈を施したものである。ただし、『語録解』のように語彙が字数別に配列されているわけではない。佐村（1900）には本書について次の二つの解題が見られる。

語録解義 寫本一卷 林道春 朱子の語録中の難解の字を摘出して略解したるもの。延寶八年庚申寺西雅文の懇志によりて記せしものなりと云ふ。(p.745)

語録解義 寫本一卷 山崎嘉 朱子の語録中より、俗語及び俗字にして解しがたきものを抄出して、一々義解を施したるものなり。(同上)

後述するように、上の二つは実際には同一書の異本という関係にあり、その著者を林道春即ち林羅山（1583-1657）とする説と、山崎嘉即ち山崎闇斎（1619-1682）とする説が存在していることになる。本書に関する先行研究としては、阿部吉雄（1965）、近藤啓吾（1986）、村上雅孝（1993, 94, 95）、神林裕子（1997）等がある。

『語録解義』には刊本と写本が現存しているが、管見の限りこれまで刊本の存在が注意されることはなかったように思われるので、これにつきやや詳しく述べる。

『語録解義』の刊本は記録によれば延宝3年（1675）刊本を始めとして複数存在していたようであるが<sup>4</sup>、現在目睹し得るのは延宝9年（1681）跋刊本

4 村上（1994）の挙げる慶応義塾大学斯道文庫編（1962-64）によれば、延宝3年（1675）、元禄9年（1696）、正徳5年（1715）の目録に『語録解義』の名が見られるという。

で、波多野（1991-95）の第5編第2巻にその影印が収められている<sup>5</sup>。解題によれば、1冊、9.5×7cm、全18丁、有界、毎半葉5行、行8字、注文小字双行。巻末の跋には次のようにある。

語録解義一冊。耆舊之藏也。世言藤歛夫先生所編撰也。予憶不然。疑非中華村儒之所著。則本邦叢林家之抄録也耶。字義之解然。韻書不載者間有之焉。茲者應棗人之需而附柳贅。加蛇足為童課之一助者也。時延宝歲次辛酉麥秋。山重頭把筆于銅駝寓舍。（18a1-18b5）

この跋をなした山重頭とは山脇道圓（生卒年不詳）、儒者にして兵学を兼ねた人で、著書に『八陣圖説』1巻（1667）、『増補下學集』6巻（1669）等、訓点に『分類補注李太白詩』25巻（1679）、『詩法指南』2巻（1681）等がある。跋によると、本書は世に藤歛夫即ち藤原惺窩（1561-1619）の編撰と伝えられるが、山脇自身は本邦の叢林家即ち禅家に伝わるものではないかと推定していることになる。

同本に挙げられる語彙の総数は301語であるが、うち末尾の65語は異体字や俗字を見出し語として掲げ、注として本字を記した部分であり、これが跋にいう「加蛇足為童課之一助」に当たるとされる<sup>6</sup>。よって実質的には236語、その内訳は一字語が88語、二字語が139語、三字語が5語、四字語が4語となる。

次に写本について述べる。村上（1994）によれば『語録解義』の写本は国立公文書館内閣文庫に2種、国立国会図書館、日本大学図書館、久留米市立図書館に各1種の計5種が存するという。2種ある内閣文庫本について、近

5 波多野氏の解題には次のように記されている：「袖珍一冊。撰者不詳。延宝辛酉（天和元年—1681年）の秋、刊。著者については跋文に優れた見解があるが、往時朝鮮に於ける読解の注記本が輸入され、本邦の学者が手を入れたり補ったりしたものであらう。文気から来る感覚からして、異字俗字の見解は参考となる。除是や除非の理解は洗練されてゐる。」

6 同本の16a4から17b5までに当たる。いま、その部分につき本字のみを示すと以下の通り：職、般、養、風、過、壞、多、兩、對、亂、陰、陽、勸、亡、極、陰、陽、死、澤、賢、聖、義、德、儀、議、婦、離、赴、備、猶、嘆、權、必、應、尔、至、諸、之、令、前、乎、然、退、饌、會、還、勢、齊、龍、壽、從、嚴、剛、及、觀、與、學、猶、足、惡、熟、剛、恨。

藤（1986）及び村上（1994）では『語録辭義』<sup>7</sup>を合載するものを甲本，含まないものを乙本と呼んでおり，本稿もその呼称に従う。なお，村上（1994）によれば日本大学図書館本は内閣文庫乙本を写したものであり，久留米市立図書館本は内閣文庫甲本を写したものであるとされ，写本の系統は実質的に3種類と見てよい。以下村上氏の考証に拠りつつその概略を記すことにしたい。現存の写本はいずれも『語録解義』単独ではなく，他の篇との合冊という形を取り，3種とも『常話方語』<sup>8</sup>を含んでいる。

内閣文庫甲本（所蔵番号191-384）は1冊，27.5×20.0cm，外題は墨筆で「語録解義 全」，全26葉，毎半葉8行。その構成は『語録解義』（1a-8a），『常話方語』（8a-13b），『語録辭義』（14a-15b），及び『文會筆録』の摘録<sup>9</sup>（15b-26b）である。巻末には「右山崎氏撰之。」（26b6）との識語がある。

同本は内題を欠く。全230語，その内訳は一字語が86語，二字語が131語，三字語が9語，四字語が4語である。

内閣文庫乙本（所蔵番号191-377）は1冊，13.6×19.7cm，外題は墨筆で「語録解義」，全27葉，毎半葉9行。その構成は，『語録解義』（1a-8a），『常話方語』（9a-19b），『与汪德夏筆語』<sup>10</sup>（20a-21b），『与朝鮮進士文弘績筆語』<sup>11</sup>（21b-27a）である。巻末には，「此書羅山先生之編述也。予秘不出者尚矣。今鏤梓以傳萬世者也。于時延寶六戊午曆正月上澣吉日。下總國本庄住人依田

7 『語録辭義』不分巻は，宋儒の語録に見られる語彙に対し主に漢文で釈文を付したもので，『語録解義』と同趣向の著述と言える。近藤（1986）は本書を山崎闇斎の撰とする。

8 『常話方語』不分巻は浅見綱斎（1652-1712）の撰とされ，『朱子語類』等に見られる語彙に和文で訓釈を付したもの。古典研究会（1969-76）の第5集所収。

9 『文會筆録』20巻は山崎闇斎の主著で，経書・朱子学に関する重要な文章を摘録し，評注や按語を記したもの。なお，この部分を近藤（1986）では『語録辭義』の続きと見て，これが後に『文會筆録』に収められたのだとし，村上（1994）では既になっていた『文會筆録』より摘録したものだとする。本稿では仮に村上説により記述した。

10 『与汪德夏筆語』は林羅山と明人汪徳夏との筆談記録で，羅山が中国語の字義を問い，汪がそれに答えるという形を取る。『林羅山文集』巻59に同様の問答記録が収められている。汪徳夏は流落の明人で，寛永15年（1638）当時脇坂淡路守の援助を受け書写を生業としていたという。

11 『与朝鮮進士文弘績筆語』は林羅山と文弘績との筆談記録で，中国語の語義をめぐる問答が中心である。やはり『林羅山文集』巻60に同様の記録が収められている。なお，文弘績は寛永13年（1636）に来朝した朝鮮通信使の一行の一人で，この時の問答で羅山が提示した『吾妻鏡』所収の女真文字を「王国貴族」と解釈した人物としても知られる。

氏山本九左衛門板行。」(27a5-27b5)との識語があり、これによれば同本は延宝6年(1678)刊本に基づき筆写されたものであることがわかる。

同本の巻頭には「語録解義 林氏編」とある。全228語、その内訳は一字語が86語、二字語が129語、三字語が9語、四字語が4語である。

国会図書館本(所蔵番号111-140)は1冊、25.6×19.2cm、全11葉、每半葉9行。その構成は、『語録解義』(1a-4a)、『常話方語』(4b-8a)、『學術辭』<sup>12</sup>(8b-10b)である。巻末には、「写本云。右羅山先儒語録解義者。就寺西忠右衛門雅丈懇志。延宝八年庚申仲夏廿日於武江麻布写書之了。」(11a1-3)、「于時貞享四丁卯終夏二日写書之了。政相。」(11b1-2)との識語があり、これによればもと延宝8年(1680)の写本を貞享4年(1687)に政相なる者が筆写したものと考えられる。上の佐村(1900)に見られる「寺西雅文の懇志」云々はこの記載に基づいたものであろう。

同本の巻頭には「語録解義 羅山」とある。総語数は238語であるが、末尾の12語には積文がないので、<sup>13</sup>実質的には226語、その内訳は一字語が86語、二字語が127語、三字語が9語、四字語が4語である。

以上3種の写本のうち、内閣文庫乙本と国会図書館本は林羅山の撰とし、内閣文庫甲本は山崎闇齋の撰とする。いずれの写本も『語録解義』に他の諸篇を合載して一書をなすことについて、村上(1994)は「闇齋を著作者と考えたい者と羅山を著作者と考えたい者が、各々意図的に編集したものと考えられる」としており、これは当を得た見解であろうと思われる。

#### 4. 『語録解義』と『語録解』一字語の対照

『語録解義』と『語録解』の共通性については阿部(1965)以来つとに指摘されるところであり、村上(1994, 95)及び神林(1997)においては実際

12 『學術辭』は中国語の語彙に和文で訓釈を施したものだが、口語的な語彙はごく少ない。本書については未詳。

13 同本の3b8より4a1までに当たる。その語彙は以下の通り：恁地、只恁底、那裏、這裏、這／那處、只管恁、這／那箇、只恁、劈初頭、只恁休了、恁去、伎倆。

に語釈の比較も試みられているのだが、特に『語録解』の扱いについて再考の余地があるように思うので、本稿では改めて『語録解義』と『語録解』の対照作業を行ってみたい。以下では、『語録解義』における一字語の項目を掲げて4種のテキストにおける語釈を挙げ、その下に『語録解』の鄭澹本と南二星本における語釈を引くことにする。

『語録解義』は延宝9年刊本（略称【刊】）、内閣文庫甲本（同【甲】）、内閣文庫乙本（同【乙】）、及び国会図書館本（同【国】）の各本における記載を挙げる。語彙の配列順序は刊本に基づき、写本にのみ存在する語彙は最後に配する。なお、いずれのテキストにおいても「便」字が重出し（No.41）、内閣文庫乙本ではさらに「和」字も重出する（No.80）が、こうした場合は1項目の中に語釈をまとめた。虫損等により見えない箇所は□で表す。

『語録解』は鄭澹本（略称【鄭】）、南二星本（同【南】）とも安秉禧（1983b）所収の木版本の影印に基づき、不鮮明箇所については弘文閣（2005）により確認した。カッコ内の出現箇所に示した漢数字はその語彙が何字類に属するかを示すもので、今回はすべて一字類である。ハンゲルは河野（1947）の方式によってローマ字転写し（ただしアレアはAで表す）、直後の〔 〕内に日本語訳を記す（音注として記されたものは除く）。漢字で記された部分につき、『語録解義』と明らかな共通性が認められる場合は下線を引く。

1. 也：【刊】亦也。(1a2) 【甲】亦也。(1a2) 【乙】亦也。(1a2) 【国】亦也。(1a2) 【鄭】語辭。又 sdo [また]。眉訓亦也。猶也。(一1a4) 【南】語辭。又 sdo。眉訓亦也。猶也。(一1a5)
2. 撩：【刊】扶也。(1a2) 【甲】扶也。(1a2) 【乙】扶也。(1a5) 【国】扶

---

14 村上（1994）では一字語、同（1995）では二字語について、『語録解義』と『語録解』との対照が試みられているが、例の挙げ方が散発的で、朝鮮語の解釈にもやや不安が残る。また神林（1997）では附録として『語録解義』の内閣甲本と『語録解』の南二星本の語釈対照表が掲げられているが、ハンゲルで記された部分は省略されている。なお、村上氏と神林氏の研究はそれぞれが独立して草されたものの如くである。



- 也。(1a2)【鄭】de-ui-jab-da〔掴む, 握る〕。(1b1)【南】de-ui-jab-da。○又挾也。取也。理亂曰撩理。(1a6)
3. 他:【刊】彼也。又誰也。(1a2)【甲】彼也。又也。實也。(1a3)【乙】彼也。又實也。又也。(1a8)【国】彼也。又也。實也。(1a2)【鄭】die〔あれ, あの〕。又 nA-myi〔ほかの, 他人の〕。眉訓彼也。又某人也。(1a4)【南】die。又 nA-myi。眉訓彼也。又某人也。(1a5)
4. 慇:【刊】溷同也。薦舉也。(1a3)【甲】溷洞也。薦舉也。(1a3)【乙】溷洞也。薦舉也。(1a2-3)【国】溷洞也。簾舉也。(1a2)【鄭】溷全。(1a4)【南】×
5. 矚:【刊】左右驚顧。一云視遽兒。(1a3-4)【甲】左右驚顧。一云視遽兒。(1a4)【乙】左右驚顧也。一云視遽兒。(1a3-4)【国】左右驚視也。一云視處也。(1a3)【鄭】左右驚顧。又視遽兒。(1a6)【南】左右驚顧。又視遽貌。(1a1)
6. 似:【刊】向也。(1a4)【甲】向也。(1a4)【乙】向也。(1a2)【国】向也。(1a3)【鄭】向也。眉訓亦於也。國一身輕似葉。(1a3)【南】向也。眉訓亦於也。古詩云。國一身輕似葉。(1b7)
7. 棼:【刊】亂也。(1a4)【甲】乱也。(1a5)【乙】乱也。(1a2)【国】乱也。(1a2)【鄭】乱也。(1a5)【南】×
8. 生:【刊】語辭。(1a5)【甲】語辭。(1a5)【乙】語辭也。(1a4)【国】語辭。(1a3)【鄭】語辭。(1b2)【南】語辭。(1a7)
9. 搯:<sup>15</sup>【刊】批也。又打也。(1a5)【甲】批也。又也也。(1a6)【乙】□□。又打也。(1a4-5)【国】批也。又折也。(1a4)【鄭】音 goig。手打也。批也。(1a6)【南】音 goig。手打也。批也。(1a1)
10. 羨:<sup>16</sup>【刊】善也。(1a5)【甲】善也。(1a6)【乙】×【国】善也。(1a4)【鄭】音弋九切。善也。(1a8)【南】未詳。(1a3)

15 内閣乙本は見出し語の部分が虫損となっている。

16 刊本, 国会本は「美」に作る。

11. 做：【刊】作也。工夫成意也。(1b1)【甲】工夫成意。作也。(1a7)【乙】工夫成意。作也。(1a5-6)【国】工夫成意。實也。(1a4)【鄭】作也。又工夫成意。(一1b5)【南】作也。又工夫成意。(一2a4)
12. 直：【刊】正也。(1b1)【甲】正也。(1a8)【乙】正也。(1a7)【国】正也。(1a5)【鄭】ba-rA [まっすぐ, 正しく]。又 hAn-gas [単に, ただ]。(一3a5)【南】ba-rA。又 hAn-gas。○物價 ssA-da [値する]。(一4a6)
13. 恨<sup>17</sup>：【刊】悲也。又眷眷貌。(1b2)【甲】悲也。又眷々兒。(1a8)【乙】悲也。又眷々兒。(1a6-7)【国】悲也。又眷々兒。□諒。(1a4)【鄭】音兩。悲也。又眷々兒。又音朗。不得志。(一2a6)【南】音兩。悲也。又眷眷貌。又音朗。不得意。(一2b8)
14. 貼：【刊】依附也。粘置也。(1b2)【甲】付也。(1b1)【乙】付也。(1a8)【国】付也。(1a4)【鄭】by-ti-da [付ける]。俗所謂襍一亦此意。(一1b1)【南】by-ti-da。俗所謂襍一亦此意。○貼將來 hyng-jieng gab-syr ge-sy-rie o-da [商売の値を(お釣りとして)返してもらってくる]。(一1b6)
15. 争：【刊】何也。(1b3)【甲】何也。(1b1)【乙】何也。(1a7)【国】何也。(1a5)【鄭】es-diei [どうして, なぜ]。又有争之意。(一1b6)【南】es-diei。又有争之意。○bdy-da [眼を見開く]。(一2a7)
16. 將：【刊】持也。(1b3)【甲】持也。(1b2)【乙】持也。(2a1)【国】持也。(1a3)【鄭】ga-jie [持つて]。眉訓持也。(一4b1)【南】ga-jie。眉訓持也。(一6a3)
17. 踢：【刊】跌也。行失正也。又飛動也。(1b3-4)【甲】跌也。行失正兒。又飛動兒。(1b3)【乙】跌也。行失良。又飛動兒。(1a9-1b1)【国】跌也。行失兒。又飛動。(1a5)【鄭】音唐。跌一也。行失正兒。又飛動兒。搶也。(一3a1)【南】音唐。平聲。跌一也。頓伏貌。行失正貌。又飛動

17 刊本は「恨」に作る。

貌。又搶也。○又見去聲。cA-da〔蹴る〕。(一4a2-3)

18. 在：【刊】語辭。(1b4)【甲】語辭。有在意。(1b3)【乙】語辭。存在意。(1b1)【国】語辭。有在意。(1a5)【鄭】語辭。有在意。(一2a7)【南】語辭。有在意。(一3a2)
19. 輓：【刊】車轂齊等貌。(1b4-5)【甲】車轂齊等兒。(1b4)【乙】車轂齊等也。(1b2)【国】車轂齊等兒。(1a6)【鄭】音混。車轂齊等兒。(一3a1)【南】音混。車轂齊等貌。(一4a3)
20. <sup>18</sup>下：【刊】猶言瑣細也。一本猶措置。(1b5)【甲】猶言措置。(1b8)【乙】猶言措置也。(1b5)【国】猶言措置。(1a7)【鄭】音 hia。下字言 a-mA 字 nAr no-ta〔何らかの字を置く(手紙等で知らせる)〕。下手 son di-ta〔手を下す〕。下工夫亦同。(一4a3-4)【南】音 hia。下字言 a-mA 字 rAr no-ta。下手 son di-ta。下工夫亦同。(一5b3)
21. 捽：【刊】持頭髮也。(2a1)【甲】持頭髮也。(1b4)【乙】持頭髮也。(1b3)【国】持頭髮也。(1a6)【鄭】持頭髮也。(一2a7)【南】×
22. 要：【刊】求也。為也。(2a1)【甲】求也。欲為也。(1b5)【乙】求也。為也。(1b3)【国】求也。為也。(1a6)【鄭】求也。又 by-dAi〔どうか、ぜひとも〕。又 hA-go-jie〔～しようと〕。(一1a6)【南】求也。又 by-dAi。又 hA-go-jie。○音見平聲及去聲。要約也。勒也。固要也。察也。以上平聲。久要也。樞要也。要會也。欲也。以上去聲。(一1b1)
23. 些：【刊】少也。(2a1)【甲】少也。(1b4)【乙】少也。(1b2)【国】少也。(1a6)【鄭】×【南】×
24. 却：【刊】在句末者語辭也。埋却忘却之類。(2a2-3)【甲】在句末者語辭。又旋也。埋却殺却。(1b6)【乙】在句求者語辭。又旋也。殺却。(2a1-2)【国】在句末者語辭。又施也。(1a6-7)【鄭】語辭。又 do-ro-hie〔かえつて、逆に〕。又 sdo〔また〕。眉訓還也。其在末句者語辭。(一1a5)【南】語辭。又 do-ro-hie。又 sdo。眉訓還也。其在末句者語辭。(一1a6)

18 内閣乙本は見出し語の部分がか虫損となっている。

25. 鋸：【刊】解截也。(2a3)【甲】解截也。(1b7)【乙】解截。(1b4)【国】解截也。(1a7)【鄭】解截也。(一3a7)【南】×
26. 霎：【刊】音挿。少頃也。(2a4)【甲】音挿。少頃也。(2a1)【乙】少頃也。(1b6-7)【国】音挿。少頃也。(1a8)【鄭】音 sab。少頃也。小雨也。(一3a6)【南】音 sab。少頃也。小雨也。(一4a8)
27. 攔：【刊】遮也。(6a3)【甲】遮也。(3b8)【乙】遮也。(3b3-4)【国】遮也。(2a3)【鄭】遮也。(一2a9)【南】遮也。(一3a5)
28. 如：【刊】直指也。(6a4)【甲】直指兒。(3b8)【乙】直指兒。(3b5-6)【国】直指兒。(2a4)【鄭】da-hie [~の如く]。猶今郷人有所歴舉。則必曰 da-hie 也。(一1a7)【南】da-hie。猶今郷人有所歴舉。則必曰 da-hie 也。○ man-ir [万一、もしも]。又 ga-da [行く]。(一1b2)
29. 惹：【刊】亂也。又引著也。(6a4)【甲】乱也。佳也。又引着也。(4a1)【乙】乱也。又引佳也。(4a1)【国】乱也。住也。又引著。(2a4)【鄭】乱也。又引着也。(一2a8)【南】亂也。又引着也。(一3a3)
30. 脱：【刊】猶設或也。倘若也。(6b5)【甲】×【乙】×【国】×【鄭】×【南】×
31. 了：【刊】知也。卒也。事畢也。(7b5)【甲】知也。卒也。事畢也。(4a8)【乙】知也。卒也。事畢也。(4a7)【国】知也。卒也。事畢也。(2a8)【鄭】語辭。又 mAs-da [終える]。又 a-da [知る]。又 gos [すぐに、即ち]。又 jam-gan [しばらく、ちょっと]。眉訓在末句者事之已畢為一。(一1b6-7)【南】語辭。又 mAs-da。又 a-da。又 sjam-sgan。眉訓在末句者事之已畢為一。(一2a6)
32. 著<sup>19</sup>：【刊】有爲也。倚著也。又使也。(8a1)【甲】有爲也。倚着也。又使也。(4b1)【乙】有爲也。倚着也。又使也。(4a8-9)【国】有爲也。倚著也。又使也。(2a8)【鄭】猶言為也。又 bys-da [付く]。又 du-da [置く]。(一1b8)【南】猶言為也。又 bys-da。又 du-da。○語辭。又使也。

19 内閣甲本、乙本は字体を「着」に作る。

(一2a8)

33. 作：【刊】爲也。(8a1)【甲】爲也。(4b1)【乙】爲也。(4b2)【国】爲也。(2a9)【鄭】爲也。亦語辭。(一1b9)【南】爲也。亦語辭。(一2b2)
34. 夯：【刊】音向。擔。(8a2)【甲】音向。擔也。(4b2)【乙】音向。擔也。(4b3-4)【国】音向。擔也。(2a9)【鄭】音向。擔也。(一3a1)【南】音向。擔也。(一4a2)
35. 竈：【刊】音轟也。始爲穴也。南陽人呼穿土爲竈。又穴也。(8a2-3)【甲】音轟也。始爲穴也。南陽人呼穿土爲竈。又窟也。(4b2-3)【乙】音轟也。始爲穴也。南陽人呼穿土爲竈。又窟也。(4b5-7)【国】音轟也。始穴也。南陽人呼穿土爲竈。又窟也。(2a9)【鄭】音轟。(一3a4)【南】×
36. 錯：【刊】誤也。(8a3)【甲】誤也。非也。(4b4)【乙】誤也。非也。(4b9)【国】誤也。非也。(2b1)【鄭】gy-rAs〔誤って〕。又 oi-da〔間違っている〕。(一3a4)【南】gy-rAs。又 oi-da。(一4a6)
37. 來：【刊】語辭。有來意。(8a4)【甲】語辭也。有來意。(4b4)【乙】語辭也。有來意。(5a1-2)【国】語辭也。有來意。(2b1)【鄭】語辭。有來意。(一2a1)【南】語辭。有來意。(一2b4)
38. 才：【刊】與纒同。(8a4)【甲】与纒同。(4b5)【乙】与纒同。(5a4)【国】与纒同。(2b1)【鄭】與纒同。又 gAs〔やっと，初めて〕。(一1a3)【南】與纒同。又 gAs。(一1a4)
39. 弼：【刊】與弼同。(8a5)【甲】弼与同。(4b5)【乙】同弼。(5a5-6)【国】与弼同。(2b1)【鄭】弼全。(一3a2)【南】×
40. 去：【刊】語辭。有云意。(8a5)【甲】語辭。有去意。(4b6)【乙】語辭。有去意。(5a7-8)【国】語辭也。有去意。(2b1)【鄭】語辭。有去意。眉訓舍此事爲彼事之意。(一1a7)【南】語辭。有去意。眉訓舍此事爲彼事之意。(一1b2)
41. 便：【刊】即也。又假使也。(8b1)；私傳也。便中使人便風皆一語也。(10a2-3)【甲】即也。又假使也。(4b6)；私傳也。便中使人便風皆一語

也。(5b8)【乙】即也。又假使也。(5b1)；私傳也。便中使人便風皆一語也。(5b4-5)【国】即也。又假使也。(2b2)；私傳也。便中使人便風皆一語也。(2b8)【鄭】gos〔すぐに、即ち〕。又 suib-da〔たやすい、容易だ〕。又私傳也。如風便是也。眉訓即也。猶假使也。又因人寄書謂之一。(一1b3-4)【南】gos。又 suib-da。又私傳也。如風便是也。眉訓即也。又因人寄書謂之一。○音見平聲及去聲。安也。習也。便便言也。肥滿也。洩也。以上平聲。利也。宜也。順也。即也。便殿也。便安也。以上去聲。(一2a1-2)

42. 撒：<sup>20</sup>【刊】音殺。(8b1)【甲】音殺。(4b7)【乙】音殺。(5b2)【国】音殺。(2b2)【鄭】音煞 soai。又音散。々之々兒。(一2b1)【南】音煞 soai。又音散。散之之貌。(一3a6)
43. 頭：【刊】直也。末也。(8b1-2)【甲】直也。末也。(4b7)【乙】末也。直也。(4a7-8)【国】直也。末也。(2b2)【鄭】gys〔端、先〕。(一1b9)【南】gys。○語辭也。語端皆云頭。(一2b2)
44. 你：【刊】汝也。(8b2)【甲】汝也。(4b8)【乙】汝也。(4a9)【国】汝也。(2b2)【鄭】汝也。眉訓爾也。音 ni。(一2b3)【南】汝也。眉訓爾也。音 ni。(一3a8)
45. 管：【刊】領得也。(8b3)【甲】領得也。(4b8)【乙】領得也。(4b2)【国】領得也。(2b2)【鄭】主之也。gA-zAm-a-da〔管理する、つかさどる〕。眉訓捻攝也。(一2a1)【南】主之也。gA-Am-a-da。眉訓捻攝也。(一2b3)
46. 挨：【刊】推也。(8b3)【甲】推也。(5a1)【乙】推也。(4b4)【国】推也。(2b2)【鄭】音埃。推也。(一3a1)【南】音埃。推也。○按次謂之一次。(一4a4)
47. 較：【刊】適而兩物相比而差也。(8b3-4)【甲】適而兩物相比而同差也。(5a1)【乙】適也。兩物相批而差也。(4b7-8)【国】適而兩物相比。同

20 内閣乙本は「徹」に作る。

- 差。(2b3)【鄭】 ma-co-a [ちょうど, たまたま]。直也。不等也。相角也。對兩而計其長短。又 gA-jang [最も, 非常に]。(一1a8-9)【南】 ma-co-a。直也。不等也。相角也。對兩而計其長短。又 gA-jang。(一1b3)
48. 𠂔:【刊】音紅。飛也。(8b4)【甲】音紅。飛也。(5a2)【乙】音紅。飛也。(4b9-5a1)【国】音紅。飛也。(2b3)【鄭】音 hong。飛也。(一3a3)【南】×
49. 捏:【刊】止也。又來之意。(8b5)【甲】止也。又來之意。(5a2)【乙】止也。又來之意。(5a2)【国】止也。又來之意。(2b3)【鄭】 jui-da [握る, 掴む]。又 mo-do-da [集める]。又 ji-be moi-ho-da [つまみ集める]。音 nar。(一3a4)【南】 jui-da。又 mo-do-da。又 ji-be-moi-ho-da。音 nar。(一4a5)
50. 渾:<sup>21</sup>【刊】皆也。(8b5)【甲】皆也。(5a3)【乙】皆也。(5a4)【国】皆也。(2b3)【鄭】 o-o-ro [全く, 完全に]。猶言全也。(一2b3)【南】 o-ro。猶言全也。(一3a8)
51. 儘:【刊】任也。又極也。(9a1)【甲】任也。又極也。(5a4)【乙】任也。又極也。(5a8)【国】任也。又極也。(2b4)【鄭】任也。(一3a3)【南】任也。○ is-ges [極めて, 精一杯]。又 gA-jang [最も, 非常に]。(一4a5)
52. 僕:【刊】人也。(9a1)【甲】人也。(5a4)【乙】人也。(3a5)【国】人也。(2b4)【鄭】 sa-rAm [人]。(一3a5)【南】×
53. 合:【刊】的也。(9a1)【甲】的也。(5a5)【乙】的也。(5a9)【国】的也。(2b4)【鄭】 mas-dang [当然, あたり前]。又 bon-dAi [本来, もともと]。(一2a2)【南】 mas-dang。又 bon-dAi。(一2b6)
54. 減:<sup>22</sup>【刊】消也。(9a2)【甲】消也。(5a5)【乙】消也。(4a8)【国】消

21 国会本は「軍」に誤る。

22 内閣乙本は「減」に誤る。

- 也。(2b4)【鄭】×【南】×
55. 綫：【刊】音善。細絲。(9a2)【甲】音善。細絲。(5a6)【乙】音善。細絲也。(4b1)【国】音善。細絲。(2b4)【鄭】音善。細絲也。(一3a3)【南】×
56. 割：【刊】觸也。(9a2)【甲】觸也。(5a6)【乙】觸也。(4b3)【国】觸也。(2b4)【鄭】ji-rA-da〔突く，刺す〕。眉訓著也。(一1b7)【南】音car。刺着也。di-rA-da。○唐人奏事非表非状者。謂之割子。(一2a8)
57. 抹：【刊】末。又打棄也。(9a3)【甲】末也。又破棄也。(5a7)【乙】末也。又棄也。又破。(4b4-5)【国】末也。又破棄也。(2b5)【鄭】hA-ie bA-ri-da〔壊す，壊してしまう〕。(一3a7)【南】hA-ie bA-ri-da。○ei-u-ti-da〔消し去る〕。(一4b2)
58. 没：【刊】無也。(9a3)【甲】無也。(5a3)【乙】無也。(5a6)【国】無也。(2b3)【鄭】無也。眉訓。(一1a6)【南】眉訓無也。(一1a8)
59. 底：【刊】極處也。(9a3)【甲】極處也。(5a7)【乙】極處也。(5a2-3)【国】極處也。(2b5)【鄭】當處也。或作的。又gy-ren ge-si〔そのようなものが〕。眉岩訓。(一1a3)【南】當處也。或作的。又gy-ren ge-si。眉巖柳希春也。後凡云眉訓倣此。○根一也。又與地同。又語辭。(一1a3)
60. 解：【刊】知也。能也。(9a4)【甲】知也。能也。(5a8)【乙】知也。能也。(5a4)【国】知也。能也。(2b5)【鄭】a-da〔知る，わかる〕。(一1a8)【南】a-da。○解粮解銀押解。皆輸到卸下之意也。(一1b3)
61. 拑：【刊】伐也。折也。(9a4)【甲】伐也。折也。(5a8)【乙】伐也。折也。(5a6)【国】伐也。折也。(2b6)【鄭】bsgai-ie〔壊して〕。又bjAi-ie〔裂いて〕。俗析字。(一1b7)【南】bgai-ie。又bjAi-ie。俗析字。(一2a7)
62. 漫：【刊】無聊意。(9a4)【甲】無聊意。(5b1)【乙】無聊也。(5a8-9)【国】無聊意。(2b6)【鄭】him-ク-ta〔暇だ〕。(一2b4)【南】him-



him-ta。(一3b2)

63. 得：【刊】語辭。又覓意。又有得意。(9a5)【甲】語辭。又覓意。又有得意。(5b1)【乙】語辭。又不見意。不有得意。(5b1-2)【国】語辭。又不覓意。又有得意。(2b6)【鄭】語辭。又 or-ta [正しい, その通りだ]。有得意。(一1b2)【南】語辭。又 or-ta。有得意。(一1b8)
64. 會：【刊】知解也。(9b1)【甲】知解也。(5b2)【乙】知解也。(5b3)【国】和解也。(2b5)【鄭】a-da [知る, わかる]。(一2b4)【南】a-da。○hAn-di-ui du-di-ui [一回二回] 謂之一一二一。(一3b1)
65. 恰：【刊】合足也。(9b1)【甲】合足也。(5b2)【乙】合足也。(4a8)【国】合足也。(2b5)【鄭】ma-ci [まるで, あたかも]。眉訓適當之辭。(一1a9)【南】ma-ci。眉訓適當之辭。(一1b5)
66. 鎮：【刊】恒也。長在貌。(9b1-2)【甲】恒也。長在兒。(5b3)【乙】恒也。長在兒。(4b1-2)【国】恒也。長在兒。(2b6)【鄭】diang-siang [いつも, 常に]。(一1b8)【南】diang-siang。(一2b1)
67. 那：【刊】彼也。何也。(9b2)【甲】彼也。何也。(5b3)【乙】彼也。何也。(4b3)【国】彼。何也。(2b6)【鄭】die [あれ, あの]。又 es-di [どうして, なぜ]。眉訓彼也。(一1a7)【南】die。又 es-di。眉訓彼也。○又 e-dyi [どこ]。(一1b3)
68. 淞：【刊】即浙字。(9b2-3)【甲】即浙字。(5b4)【乙】即浙字。(4b5)【国】即浙字。(2b7)【鄭】即浙字。(一2a4)【南】×
69. 還：【刊】語辭。有却意。(9b3)【甲】語辭。有却意。(5b4)【乙】語辭。有却意。(4b8-9)【国】語辭。又有却意。(2b7)【鄭】語辭。又 do-ro-hie [かえって, 逆に]。(一1a9)【南】語辭。又 do-ro-hie。○dang-si-rong [まだ, なお]。又 gam-da [巻く]。又 da-ham [さらに, ただ, それでも, かえって]。(一1b5)
70. 煞：<sup>23</sup>【刊】與殺同。(9b4)【甲】与殺同。(5b5)【乙】与殺也。(5a1)【国】

23 国会本は「然」に誤る。

- 同殺。(2b7)【鄭】與殺同。ga-jang〔最も、非常に〕。音 soai。(一1b3)【南】與殺同。ga-jang。音 soai。(一2a2)
71. 差：【刊】不等也。與較同。相角也。(9b4)【甲】不等也。與較同。相角也。(5b5)【乙】不等也。與較同。相角也。(5a3)【国】不等也。與較同。相角也。(2b7)【鄭】jie-gi〔少し、ちょっと〕。與較全。又差出之意。(一2a2)【南】jie-gi。與較全。又差出之意。(一2b5)
72. 遞：【刊】傳遞也。(9b5)【甲】公傳也。(5b6)【乙】公傳也。(5a5)【国】公傳也。(2b7)【鄭】公傳也。附遞傳書謂之一。(一2a2)【南】公傳也。附遞傳書謂之一。○納也。(一2a5)
73. 箇：【刊】語辭。又介也。(9b5)【甲】語辭。又介也。(5b6)【乙】語辭。又介也。(5a7)【国】語辭。又竹也。(2b7-8)【鄭】語辭。有一一二一之意。(一1a3)【南】語辭。有一一二一之意。(一1a3)
74. 交：【刊】交付也。與教同。(10a1)【甲】交付也。與教同。(5b7)【乙】交付也。與教也。(5a9)【国】一付也。與教同。(2b8)【鄭】一付也。(一3a5)【南】一付也。(一4a7)
75. 捺：【刊】乃易切。手按也。又壓也。(10a1-2)【甲】乃曷切。又手接也。又壓也。(5b7)【乙】乃曷切。又手接也。又壓也。(5b3)【国】乃曷切。又手接也。又壓也。(2b8)【鄭】乃曷切。揜也。手按也。nu-rA-da〔押す、抑える〕。(一2a9)【南】乃曷切。揜也。手按也。nu-ry-da。(一3a4)
76. 般：<sup>24</sup>【刊】一也。與搬同。(10a3)【甲】一也。與搬同。(5b8)【乙】一也。與搬同。(5b8-9)【国】一也。與般同。(2b8)【鄭】o-o-ro-da〔完全にする〕。○疑誤。om-gi-da〔移す、運ぶ〕。又 ga-ji〔種類〕。(一2a3)【南】o-ro〔全く、完全に〕。疑誤。om-gi-da。又 ga-ji ga-ji〔さまざま〕。○一一二一之一也。(一2b7)
77. 按：【刊】下也。考也。禁也。(10a4)【甲】下也。考也。禁也。(6a1)

24 国会本は「搬」に作り、釈文を「与般同。」とする。

- 【乙】下也。秀也。禁也。(5b6-7) 【国】下也。考也。禁也。(2b9) 【鄭】  
下也。又考也。又禁也。(一1b3) 【南】下也。又考也。又禁也。(一  
2a3)
78. 訣：【刊】別也。辭也。永別之辭也。(10a4-5) 【甲】別也。辭也。永別  
之辭。(6a1) 【乙】別也。辭也。永別之辭。(6a1-2) 【国】別也。辭也。  
永別之辭。(2b9) 【鄭】絶也。又別也。又辭也。(一2a5) 【南】絶也。  
又別也。又辭也。(一2b8)
79. 靠：【刊】音告。憑也。(10a5) 【甲】音告。憑也。(6a2) 【乙】音告。  
憑。(5b5-6) 【国】音習。憑也。(2b9) 【鄭】音告。憑也。(一1b4) 【南】  
音告。憑也。(一2a3)
80. 和：【刊】從也。別本合于本物曰和。又答。(10b1) 【甲】從也。別本合  
于本物曰和。又答。(6a2) 【乙】從也。(6a4)；從也。別本合于本物曰  
和。又答。(8a6-7) 【国】從也。別本合于本物曰一。又答也。(2b9) 【鄭】  
猶言 jo-ca [～までも，～さえ]。以別物合此物曰一。a-mos-ges-jo-ca  
〔どんなものでも〕。(一1b1) 【南】猶言 jo-ca。以別物合此物曰一。  
a-my-ges-jo-ca。(一1b6)
81. 閑：【刊】遊也。等閑謂不緊無益。(10b2-3) 【甲】遊也。等閑謂不緊無  
益。(6a3) 【乙】遊也。等閑謂不緊無益。(6a9) 【国】遊也。等閑謂不  
緊無益。(3a1) 【鄭】no-da [遊ぶ，楽しむ]。又 siog-jier-eb-da [どう  
しようもない，仕方ない]。又 him-ク-ta [暇だ]。(一1a4) 【南】no-  
da。又 siog-jier eb-da。又 him-him-ta。(一1a6)
82. 摺：【刊】音擲。折也。(10b3) 【甲】音擲。折也。(6a4) 【乙】音擲。  
折也。(6b3-4) 【国】音習。折也。(3a1) 【鄭】音 tab。die-pi-da [畳ま  
れる]。又 ges-da [折る，曲げる]。眉訓 dieb-dan ma-ri-ra [「畳む」  
ということである]。(一2b5) 【南】音 tab。die-pi-da。又 sgeg-da。眉  
訓 dieb-dan mar-i-ra。(一3b3)

83. 研：<sup>25</sup>【刊】窮也。(10b4)【甲】究窮。(6a5)【乙】究窮。(6a9-10)【国】究窮也。(3a1)【鄭】窮也。gung-gug〔窮極〕。(一2b5)【南】窮也。gung-gu〔窮究〕。○磨也。(一3b4)
84. 扁：【刊】音薄典切。唐音二義。其一曰扁署門戶。其一曰姓也。(13b5-14a1)【甲】×【乙】×【国】×【鄭】×【南】×
85. 批：【刊】示也。(14a1)【甲】×【乙】×【国】×【鄭】×【南】×
86. 且：【刊】姑且也。苟且也。又發語之辭也。又按不定之辭。肆師云。禁外内命男女之褻。不中法者且授之杖。积云。外命女為王齊褻無杖。故云且。見不定之義也。(14a5-14b3)【甲】×【乙】×【国】×【鄭】×【南】×
87. 空：【刊】待也。(14b4)【甲】×【乙】×【国】×【鄭】×【南】×
88. 麼：【刊】×【甲】乎之意。(1b2)【乙】弁之意。(1a9)【国】乎之意。(1a3)【鄭】語辭。又 gy-ri〔そのように、そんなに〕。又 i-man〔これくらい〕。又 a-mo-man〔いくら、いくらか〕。又猶言乎否也。(一1b5)【南】語辭。(一2a5)
89. 跟：【刊】×【甲】足踵也。(1a6)【乙】足踵也。(1a6)【国】足踵。(1a4)【鄭】音根。足踵也。(一2b9)【南】音根。足踵也。○亦追隨也。(一3b8)
90. 𤝵：【刊】×【甲】音埃。癡也。(4b3)【乙】音埃。癡也。(4b7)【国】音埃。癡也。(2a9)【鄭】音埃。癡也。(一3a2)【南】音埃。癡也。(一4a4)

## 5. 小 結

上に挙げた『語録解義』の一字語全90項目のうち、83項目が鄭澹本『語録解』、73項目が南二星本『語録解』における一字類に挙げられている。それぞれの項目における語釈を見れば、この『語録解義』と『語録解』の間に見

25 内閣甲本、乙本、国会本は「妍」に作る。

られる類似性は疑うべくもないであろう。

また、『語録解義』のテキストは大きく刊本の系統と写本の系統に分けられること、『語録解義』の側が『語録解』の語釈を踏襲したとすれば、鄭澆本と南二星本の両方を参照していたと見なければ解釈できない部分が存在することも指摘できよう。

ただし、本稿はあくまで一字語部分のみを対象とするものであり、全体的な分析は二字語・三字語・四字語の部分を検討した上で行うことにしたい。

### <付記>

朝鮮語部分の日本語訳に関し、ソウル大学校大学院の杉山豊氏に懇切なご教示をいただいた。ここに記して謝意を表す。

### <参考文献>

- 阿部吉雄（1965）『日本朱子学と朝鮮』東京：東京大学出版会。
- 安秉禧（1983a）「《語録解》解題」『韓國文化』4：153-170；（1992）『國語史資料研究』474-494. 서울：文學과 知性社。
- 安秉禧（1983b）「《語録解》（原刊本・改刊本）影印」『韓國文化』4：171-316。
- 石崎又造（1940）『近世日本に於ける支那俗語文学史』東京：弘文堂書房。
- 遠藤光暁・伊藤英人・鄭丞恵・竹越孝・更科慎一・朴眞完・曲曉雲編（2009）『譯學書文獻目録』서울：博文社。
- 大谷森繁（1981）「語録解について—その書誌的検討と朝鮮小説史からの考察—」『朝鮮学報』99・100：279-301。
- 小倉進平（1940）『増訂朝鮮語学史』東京：刀江書院。
- 神林裕子（1997）「江戸時代における中国近世語の受容—留守希斎撰『語録訳義』を通じて」『中国研究集刊』来（19）：1726-1771。
- 慶応義塾大学斯道文庫編（1962-64）『江戸時代書林出版書籍目録集成』（斯道文庫書誌叢刊1，全4冊）東京：井上書房。
- 河野六郎（1947）「朝鮮語ノ羅馬字転写案」『Tôyôgo Kenkyû』2；『河野六郎著作集』1：96-97. 東京：平凡社。
- 弘文閣（2005）『語録解異本六種・儒胥必知』서울：弘文閣。
- 古典研究会編（1969-76）『唐話辞書類集』（全20集）東京：古典研究会。
- 近藤啓吾（1986）「『語録辞義』の發見」『山崎闇斎の研究』（神道史研究叢書13）157-

173. 京都：神道史学会.
- 佐村八郎（1900）『國書解題』東京：六合館（1926増訂改版）.
- 竹越孝（2010）「『語録解』と『水滸伝』」『水滸伝の衝撃』（アジア遊学131）73-79.  
東京：勉誠出版.
- 波多野太郎編（1991-95）『中国語文資料彙刊』（全20巻）東京：不二出版.
- 村上雅孝（1993）「近世初中期における朝鮮漢字文化の展開」『日本文化研究所研究報告別巻』30：1-15；村上（2005）161-181.
- 村上雅孝（1994）「唐話学の夜明け前—唐話辞書『語録解義』のテキストとその性格—」『国語論究』5：300-326；村上（2005）182-209.
- 村上雅孝（1995）「唐話資料『語録解義』の二字漢語」『文芸研究』139：64-73；村上（2005）210-225.
- 村上雅孝（2005）『近世漢字文化と日本語』東京：おうふう.